

千葉大学病院 ニュース

2006年9月

第8号



千葉大学医学部附属病院
Chiba University Hospital

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-222-7171 (代表)

URL <http://www.ho.chiba-u.ac.jp>

本院の基本理念

人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める。

本院の基本方針

患者中心の最適な医療を提供します。

安全で良質な医療を実践します。

最先端の診断・治療法の開発を目指します。

卒前・卒後および生涯教育を通してプライマリ・ケアから先端医療までを実践できる医療人を育成します。

本院における患者の権利

公平で良質、かつ安全な医療を受けることができます。

プライバシーが保護されます。

診断・治療法等に関して、十分な情報提供と説明を受けたうえで、自らの意思で決定できます。

臨床研究に関し十分な説明を受けたうえで、研究に参加するか否かを自ら決定し、いつでも参加を中止することができます。

患者さんへ

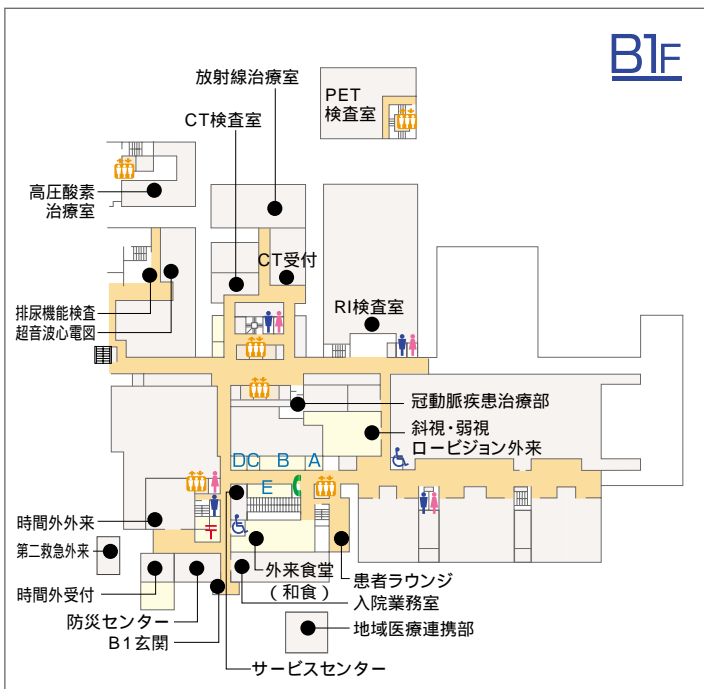
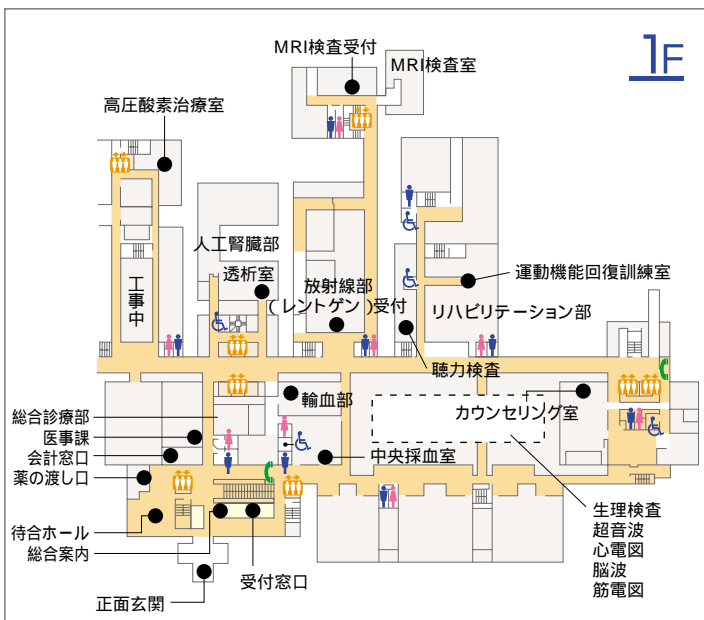
本院は、患者中心の質の高い医療を目指すとともに、次世代を担う優れた医療人を育成する医療機関であります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

診 療 科 一 覧

診療科等名		場所	初診受付日
①	消化器内科	1F	月～金
②	血液内科	1F	月～金
③	腎臓内科	1F	月～金
④	アレルギー・膠原病内科	1F	月、火、木
⑤	糖尿病・代謝・内分泌内科	1F	月～金
⑥	循環器内科	1F	月～金
⑦	呼吸器内科	1F	月～金
⑧	和漢診療科	B1F	月～金(完全予約制)
⑨	心臓血管外科	2F	月、水、金
⑩	食道・胃腸外科	2F	月、火、木
⑪	肝胆膵外科	2F	月、水、金
⑫	乳腺・甲状腺外科	2F	月～金
⑬	呼吸器外科	1F	月、水、金
⑭	麻酔・疼痛・緩和医療科	B1F	月、金(完全予約制)
⑮	泌尿器科	2F	月、火、木
⑯	整形外科	2F	火、木、金
⑰	眼科	1F	月～金
⑱	皮膚科	B1F	月、火、水、金
⑲	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2F	月、水、金
⑳	歯科・顎・口腔外科	B1F	月、火、木、金
㉑	形成・美容外科	1F	火、水、木
㉒	精神神経科	B1F	月～金(完全予約制)
㉓	脳神経外科	2F	月、水、金
㉔	神経内科	1F	月～金
㉕	婦人科	B1F	月、水、金
㉖	周産期母性科	B1F	月、水、金
㉗	小児科	1F	月～金
㉘	小児外科	1F	月、火、木
㉙	放射線科	B1F	月～金
㉚	総合診療部	1F	月～金
㉛	冠動脈疾患治療部	1F	月～金
㉜	光学医療診療部	2F	火、水、木
㉝	感染症管理治療部	1F	月～金
㉞	こどものこころ診療部	B1F	火(完全予約制)

- ・初診受付時間は、原則として午前8:30～10:30です。詳細は、総合案内(内線6087)もしくは各診療科の外来窓口にお尋ねください。
- ・紹介状をお持ちでない初診の患者さんは、特定療養費(3,150円)を頂きます。



記号のご案内



男子トイレ



車椅子対応トイレ



エレベーター



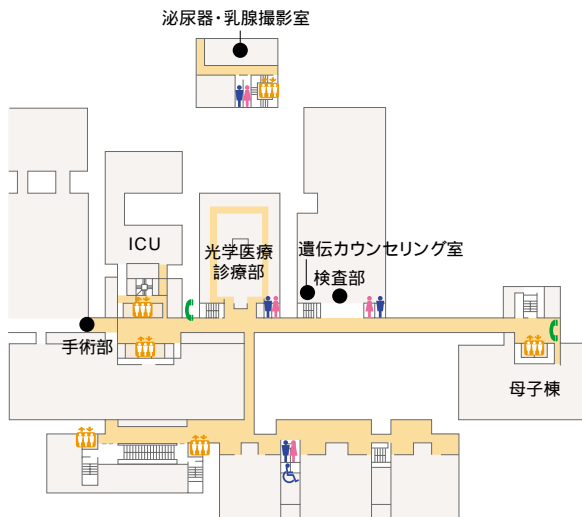
女子トイレ






公衆電話



エスカレーター



- | | | | |
|---|--|---|---|
|  階 段 |  B クリーニング |  D 売 店 |  患者様通路 |
|  A 銀 行 |  C 花 屋 |  E コインロッカー |  〒 郵便局 |

安全な医療を求めて

職員への安全教育の徹底

患者さんに満足いただける医療には、安全な医療の提供が基本となります。病院には医療事故防止のためのルールや手順がまとめられていますが、いかにこれを守って連携のとれたチーム医療を行うかが医療事故防止の鍵となります。千葉大学病院では、厳格な安全管理体制作りと、職員に対する徹底した医療安全教育や研修に力を入れています。

また院内外で発生した医療事故がけっして繰返されることのないように、医療事故の教訓を共有し合い、安全に対する価値観も等しく持つことが重要ですから、安全に関わる情報の共有のために注意喚起を全職員に周知するよう努めています。

患者さんと医療者の信頼関係こそが安全の要

医療の安全は病院の職員だけで確保できるものではありません。たとえば患者さんに個人情報を提供していただく、取り違え防止のためにお名前を名乗っていただく、転倒や転落の防止のために、病状によっては家族の方に側にいていただくなど、患者さんご家族の方の協力があってこそ安全は守られます。

また安全で良質な医療を実践するためには、患者さんと医療者との緊密で良質なパートナーシップの確保が大切です。特にインフォームド・コンセント（説明と同意）においては、患者さんに「最もよい医療を提供すること」を目指しています。患者さんと医療者がお互いの信頼関係を築いてこそ、患者さんの意思を尊重して、暖かい心を持った、安全な医療ができると考えています。

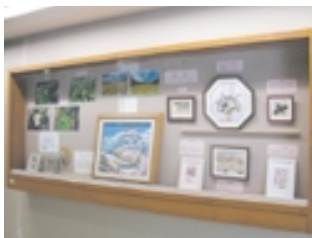
皆様の安らぎのために

—ますます広がるボランティアの輪—

当院では、5年前よりボランティア活動を開始しております。ニュース2号でも紹介いたしました外来患者さんのお世話や、なのはな文庫から始まった活動は、年を重ねるごとに種類も増えました。最近ではご来院の皆様の安らぎとなるような活動も増えて参りましたのでご紹介します。

ギャラリーでの作品展示

1階放射線部受付から小児科外来に向かう廊下に設置しています。写真や押し花など気軽に見られるような作品を展示するよう心がけています。現在は人通り



りが少ない場所ですが、新病棟の建設に伴いメインストリートになりますので、今後ギャラリーを拡充して、より多くの作品を展示していきたいと考えております。作品展示についてのご要望は地域医療連携部にお申し出下さい。

外来ホールでのピアノ演奏

外来待合ホールにグランドピアノがあるのをご存知でしょうか。これは附属の看護学校から寄贈されたピアノです。定期の院内コンサート（年3回実施）と、不定期ですが、現在2名の方がボランティア登録し演奏してくださっています。ご来院くださった折、



もしピアノの音色が聞こえていましたら、会計窓口付近のホールにおいでください。午後のひと時をピアノの生演奏でお楽しみいただけます。

診療科等のご紹介

心臓血管外科 良好な手術成績を維持して

患者さんのからだにやさしく、質の高い手術を

当院では、年間100例以上の心臓血管外科の手術を行っています。心臓手術は、ほかの臓器の手術とくらべると、手術の危険性は高いため、手術をお受けになる患者さんやご家族の心配も大きいかと思えます。これに対して、当科では良好な手術成績をめざして、体に負担の小さい手術を導入しています。

人工心肺を使わないバイパス手術

特に狭心症に対する冠動脈バイパス手術では、人工心肺を使わないで、心臓が動いたままで直径1ミリから2ミリ程度の血管同士を縫い合わせる手術（オフポンプバイパス）を約9割の患者さんに対して行っています。また、原則的に左右の内胸動脈を使用し、質の高いバイパス手術を行っています。昔のバイパス手術では足の静脈を多く使っていましたが、足の静脈は長い間につまりやすいという弱点がありました。左右の内胸動脈を使用するバイパスは技術的に難しい手術であり、患者さんの体にとってもやや負担のある方法でしたが、人工心肺を使わない手術と組み合わせることで、患者さんの体にやさしく、なおかつ長い期間よく流れる、質の高いバイパス手術を提供することが可能となりました。

この手術では、9割くらいの方が、手術の次の日には集中治療室から一般病室に元気な状態で移られています。

当科で行っているその他の手術

弁膜症の手術では、患者さんの弁を温存する弁形成手術に力をいれています。そのほか、先天性心疾患、大動脈瘤、末梢血管に対する手術をおこなっています。

歯科・顎・ 口腔外科

健康長寿はお口から

国からも認められている高度な医療

最も大きな特徴は、研究に裏づけされた最先端の臨床医学・技術を提供するという点です。以下の国により認められた高度・最先端医療がその証明ともいえます。

文部科学省：21世紀COEプログラム「消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点」

厚生労働省：高度先進医療「癌のDNA診断」、「レーザーを併用した顎関節手術」、「高度な顎顔面補綴」
対象疾患

悪性腫瘍、良性腫瘍、のう胞、歯性感染症、外傷（顎骨骨折など）、顎関節疾患、唾液腺疾患、神経疾患、顎変形症、形成不全症（唇顎口蓋裂）、埋伏歯など、口とその周辺のあらゆる疾患を対象とします。また、総合病院の歯科でもあり、全身疾患有病者の歯科治療も行っています。

主な治療成績

癌に関しては、5年生存率は87%（高度進行癌が多く含まれています）と非常に好成績です。歯が原因となった深部膿瘍、特に、胸にまで及んだガス壊疽や壊死性筋膜炎、縦隔炎は世界的に見ても非常に死亡率が高い（40～60%）のですが、独自に開発した縦隔・胸隔持続洗浄法と呼吸器外科との連携で、この20年間は全例を救命しました。

その他の特徴的な診療

睡眠時呼吸障害に関しては、麻酔科学教室と共同研究を非常に早期から行い、世界的にも評価されている英文論文等を発表し、草分け的存在として研究・治療を行ってきました。

診療科等のご紹介

婦人科

女性特有の疾患への
専門的アプローチ

女性の病気には、女性ホルモンや心理状態など女性特有の環境がかかわっています。当科では、この点に配慮しながら女性診療を専門とする医師による診療を行っています。

当科の診療では、次の3つに力を入れています。

お腹を開かない低侵襲手術

これまでは、卵巣嚢腫に対してお腹を大きく切開して、卵巣を切除する開腹手術が行われてきました。これに対し、当科ではほとんどの手術を開腹せずに行っています。お腹に小さなカメラを入れて観察し、ピンセットや電気メスなどを使って手術を行う腹腔鏡手術です。多くの患者さんで、正常な卵巣や子宮を残す手術が可能です。子宮筋腫の一部は、膣から子宮内にカメラを挿入することで、切除できます。術後1 - 3日で退院できます。

子宮を残す温存治療

これまでは、大きな子宮筋腫や多発性の筋腫は子宮ごと切除してしまう子宮全摘手術が行われてきました。当科では、正常部分の子宮を残す温存手術を実施しています。術式を工夫することで、出血量も減り安全に手術を行うことができるようになりました。術後の妊娠も可能です。希望によって、お腹を切らずに子宮筋腫を治療する塞栓療法なども行なっています。

確実性を目指した癌治療

子宮癌や卵巣癌では、抗ガン剤多剤併用による化学療法や放射線療法、拡大手術による病巣の完全切除など幅広い選択肢から、病状に合わせた治療法を選択しています。最新のエビデンス（報告）に基づいて、最も治療成績の良い治療を選びます。また、絨毛癌治療では、全国でも屈指の患者数を誇っています。

放射線科

放射線診療の中心的役割を担って

放射線科とは

病気を正確に診断していくためにCT、MRIや核医学検査等の医療画像は現在の医療において必要不可欠なものです。また、放射線を用いて病気の治療を行う放射線治療は手術・化学療法と並んで癌治療の重要な一翼を担っています。このように放射線診療は全ての病気の診断・治療に大変重要な役割を担っています。この放射線診療の中心的役割を担うのが放射線科です。放射線科は病院の診療科としては馴染みがうすいかもかもしれませんが病院全体の医療のレベルを向上させる重要な役目を担っています。

当科は放射線治療、放射線診断、核医学の3部門より構成されています。

放射線治療

全身の腫瘍を対象に年間約450人の患者さんに治療を行っています。また、病気の部位に小さな放射線を出す物質を挿入する小線源治療、病気の部分に放射線を集中する定位放射線治療等も行っています。

放射線診断

CT、MRI、超音波等の画像診断とそれらを用いて病気の治療に直接役立つ特殊画像の作成を行っています。また、血管造影等の検査とその手技を用いた血管形成術、癌の治療等を行っています。

核医学

通常のコル医学検査と陽電子核医学検査（PET）や甲状腺の病気に対する放射性ヨードによる治療を行っています。

薬剤部から

外来で化学療法を受けられる患者さんのために

以前は、積極的な薬物治療を受けていただくために、入院する必要がありました。しかし新しい薬の登場や、薬と薬の組み合わせ方、使い方の検討などから、疾患によっては、注射を中心とした薬物治療も外来で通院しながら受けることができるようになってきました。今回は、この通院治療への薬剤師の関わりをご紹介します。

患者さんに正しい薬を、正しい量で、衛生的に

治療に使用される薬剤は、効き目（効果）がある反面、好ましくない作用（副作用）もあります。そこで、患者さん一人一人に最適な薬と量の選択がとても重要となります。最近では外来において点滴で投与される場合が多くなっています。そのため、患者さん一人一人に正しい薬が正しい投与方法と量で処方され、また衛生的に調製されなければなりません。そのために薬剤師は、患者さんの薬の使用履歴を確認した上で薬を準備し、必ず二名の薬剤師がお互いに確認しあい、衛生的な環境で正確に調製しています（写真、）。その後患者さんに用いられます。こうして薬剤師は医師、看護師と連携し外来通院治療に大きく貢献しています。



写真 衛生的に調製

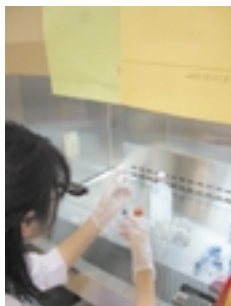


写真 正確に

看護部から

「風邪と違うインフルエンザ!!」

毎年冬になると全国的に大規模な流行となるインフルエンザ

インフルエンザとは・・・

インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをする事により、ウイルスが撒き散らされそれが口や鼻から感染します。潜伏期間は1～5日(平均3日)です。

全身症状が強く(高熱・関節痛)、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのが普通のかぜと大きく異なります。

予防接種が勧められる理由

インフルエンザは一旦流行が始まると短期間に小児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込みます。さらに、インフルエンザが流行すると、特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率が高くなりますので予防が大切になります。

当院をかかりつけにしている患者さんで予防接種をご希望の方は看護師にお申しつけください。

インフルエンザ予防接種の留意点

予防接種は、卵アレルギー以外の方は、どなたでも受けられます。

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5ヶ月間とされています。より効率的に有効性を高めるためには、毎年インフルエンザが流行する前に接種を受けておくことが必要です。

かからないための
の注意点は

外出から帰宅したら、手洗いとうがいをお願いします。

咳のエチケット
に心がけましょう。



看護職員を募集しています

職 種	看護師及び助産師
雇用形態	常勤職員、非常勤職員(パート)
詳細に関しては、下記にお問い合わせください。	
看 護 部	043-226-2650
総務課人事係	043-226-2222

千葉大学医学部附属病院への交通案内



ご来院にはバスが便利です。

1. JR千葉駅から
東口正面7番のバス乗り場から「大学病院」または「南矢作」
行きバスに乘車、「大学病院」で下車。
(約10分毎、所要時間約15分)
2. JR蘇我駅から
東口2番のバス乗り場から「大学病院」行きバスに乘車、
終点「大学病院」で下車。(約20分毎、所要時間約15分)
3. 京成電鉄 千葉中央駅からタクシー(所要時間約10分)

(表紙写真は秋田県「安の滝」)

(当院では本ニュース扉の写真を募集しています。総合案内でお預りします。)